

「わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地の果て果てまで、あなたの所有として与える。」
(詩篇2：8)

多くの方々の御祈りの翼にのって飛び立ちましたのは5月27日の夜、同行下さった佐藤氏の御助けに感謝あるのみ。途中マレーシアのクアラルンプールで5時間の待ち合わせ、プノンペン到着は28日の朝10時半、ヴァンディ牧師、グレッグ宣教師、マーク宣教師が2台の車で出迎えて下さり再会の喜びと共にご挨拶を交わした後、60キロ分の荷物を二台の車に押し込んで宿泊所兼教会に向かいました。

教会はお聞きした所によると、それまで住んでいたアパートが2年の契約期間が終了、恒例の値上げとなり、他の場所を探すしかなく、その結果、昨年11月にこの場所を見つけて二つのアパートを、一つはヴァンディ師の住居に、隣接したアパートを教会として開拓伝道をスタートされたとの事。別の場所で住んでおられるマーク宣教師と共に開始された伝道活動は今年の一月からとのこと、正に開拓ホヤホヤの戦いです。

私の住いとして準備されたのは教会の2階のゲストルームをシャワー・トイレのついた寝室として使わせて頂き、そこにはエアコンを設置しておいてくださいました。台所、リビングは階下を改造して、礼拝場とガラス戸一枚



を隔てての生活となります。リビングにはエアコンがないので、正に扇風機一台が頼りの暑さしのぎ、然し、マーク宣教師はこのような中でエアコン無しで生活しておられる、という事を伺い、贅沢を言わないようにと自戒しております。まだ到着したばかりなので、生活を整えるために家具や食器など最低3ヶ月の滞在に必要なだけの物を調えるために走りまわっておりますが、そうした中でも、一昨日6月2日(火)は当地のこどもの日、という事で、近隣のアパートの子供を対象に子供特集を計画されてましたので初めての近隣に対する伝道活動が祝されるように、と祈りつつ見守らせて頂きました。カンボジアの人々の



の習慣で、最初から時間通りに集まったのは3人だけ、どうなることかと祈ってましたが始まったときにはドンドンと集まり、終りには子供だけで40人余、これもこちら流で、正式に来会者の名前や人数を記録する事もせず、準備したお土産用のお菓子の余りの数から出席人数を推定、と至ってアバウトなやり方に、これからの教会建設が思いやられることでした。到着早々「物申す」という事は慎み、暫くはどう活動が進められていくのか、見守らせて頂くつもりですが、御祈り頂きたいと思います。

来週14~15日に(ミニステリアルミーティング：伝道者の集まり)が持たれ、KCCの群の現状が把握できる時となりましょう。その時に必要な事を語らせて頂ければ、と思っております、聖霊のご臨在による救霊の重荷が増し加えられる時となりますようお祈り頂ければ感謝です。先ずは到着して一週間の御報告と感謝と御祈りのお願いまでにて失礼します。

在 主 蔦田緑乃 (2016年6月5日記)